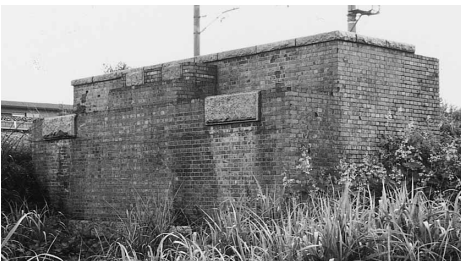


旧東上鉄道入間川橋梁煉瓦橋台①

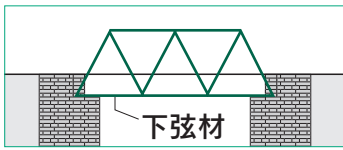
近代日本の中で、煉瓦は建築物の材料として重要でした。そして、赤煉瓦は、日本人の美意識に訴えかける魅力があるといわれています。

川越市駅から東武東上線に乗って霞ヶ関駅に向かい、入間川を越えると右側に、ひっそりとたたずむ赤煉瓦の橋台があります。この橋台は、大正五年（一九一六）に東上鉄道が川越町から坂戸町までの間を開業するにあたって、入間川に架かる橋梁の一部として造られました。橋梁は、現在と同様のトラス構造であったようです。

橋台の構造は、長手と小口の段が上下で交互に現れる「イギリス積み煉瓦造り」です。橋台最上端部の笠石および地面との接地部、橋げた（トラスの下弦材）の台座部（床石）には御影石が用いられ、補強を図っています。また、煉瓦と御影石を組み合わせて、デザインの的にバランスを取る意図もあったのではないかと考えられます。煉瓦の目地にはセメントが使われ、煉瓦どうしを強固に



橋台の写真(上)とトラス構造の図(右)



接着しています。

大正七、八年ごろを境として、煉瓦はコンクリートに土木構造物の主材料の座を譲っていきまし。この橋台は、煉瓦造りにとつての円熟期を過ぎたころに出来たといえるでしょう。

世界の国から、こんにちは！



パキスタン／村松スメラさん

結婚して、4月に川越へ来ました。パキスタンでは、ハイデラバードに住んでいました。インダス川沿いの歴史があるまちで、中心部は城壁に囲まれています。近くにはインダス文明の遺跡「モヘンジョ・ダロ」があります。

夫と日本各地を旅行しましたが、川越がいちばん好き。川越まつりの山車や着物は、とてもきれいですね。また、時の鐘を見て、ハイデラバードの時計台を思い出しました。

世界じゅうに親せきがいるからか、日本に来て不安はありません。これからの、川越での生活が楽しみです。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは13ページ・17ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

秋も深まり木々の紅葉も始まった休日に運動と芸術の秋を求め、上野公園周辺を散策。東京国立博物館で「仏像 一木にこめられた祈り」特別展を見学しました。照明が落とされた室内には仏像が醸し出す厳粛な空気。真剣に見入ってしまいました。その後、同じ敷地にある明治の洋風建築を代表する表慶館の、改修が終わって公開された美しい室内を見学。市内でも、大正期の山崎家別邸が特別公開されたのを思い出しました▶上野動物園では、9月に市内で保護されたオットセイが海に戻れる日を待っています。12月には、鴨川シーワールドに移る予定。広報川越で、その後の様子をお知らせする予定です▶寛永寺や東照宮など川越にゆかりの地を巡る途中、1台の川越ナンバーの車に出会い、より上野が身近に感じられた一日でした。